



大分県議会議員 自由民主党

宮成公一郎

みやなり こういちろう

《事務所・自宅》 〒878-0011 竹田市大字会々1861-30

TEL・FAX (0974) 63-0581 HP <https://miyanari-kouichirou.com/>

県政

令和6年
新春号

レポート③



- 去年今年貫く棒の如きもの 新たな年が明けました。初心を忘れず自分の中で変わらない信念を持ち続けて議員活動を行っていくこと、新年にあたり皆様にお約束します。
- 今号では、9月の一般質問の際にも訴えた地域の担い手不足対策に関する考えと10月に開催した県政報告会の概要についてお伝えします。今後もよろしくお願いたします。

労働力不足に関する現状

※一般質問の動画は県ホームページで視聴可能です。



■ 我が国の人口は、戦後、高度成長期を通じて増え続けたものの、今から15年前の平成20年の1億2,808万人をピークとして減少に転じました。この前後から、社会保障制度の維持を中心とした問題点や対策について多く耳にするようになりましたが、昨今は、労働力不足に関する報道が連日、紙面を賑わせるようになっています。

■ 竹田市でも高齢化が進み人口が減少する中で、様々な分野での労働力不足、担い手不足を日々、肌で感じるようになっています。

以前から農業後継者、医療・介護の専門職、建設技術士等の人材不足が指摘されてきましたが、昨今はタクシーや代行運転・路線バスの運転手、保育士、調理師、一般に職人と呼ばれる様々な技能士などなど、あらゆる業界で働き手が不足している状況に陥っており、年々その厳しさを増しています。

今後、これら暮らしに密着した分野での人手不足がさらに深刻になり、生活に必要なサービスが提供されなくなれば、地域からますます人が出て行くという悪循環が生じるのではないかと懸念しています。

■ 一方、国の人口は昨年1年間で80万人も減少しており、民間の試算によれば2040年には全国で1,100万人の労働力不足に陥るとい報道もある中、今後、本県としてしっかりと対策を練っていかなければ、本県が有する労働力を都市部に奪われてしまうのではないかと危惧しています。

また、労働基準法の改正による時間外労働時間の上限規制がすべての職種で適用される、いわゆる2024年問題の影響が表面化する中であって今後、労働力不足は加

速度を増していくのではないかと懸念されています。

	2020年	2030年	2040年	2050年	対2020年率	
	令和2年	令和12年	令和22年	令和32年	人口	比率
竹田市	20,332	15,912	12,518	9,699	△ 10,633	47.7%
大分県	1,123,852	1,031,171	936,394	841,343	△ 282,509	74.9%
国	1億2340万	1億1591万	1億698万	9740万	△ 2600万	78.9%

■ 将来人口推計 (国立社会保障・人口問題研究所) 令和5年12月22日公表

国レベルで少子化・高齢化の進行、人口減少の中、働き手不足は一層深刻に。

労働力不足に関する対策

■本県の人口減少対策は、市町村と連携を図りながら、これまでも様々な形で実施してきていますが、国全体で人口が減り、労働力が不足していく中において、この先も住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、県として総合的かつ戦略的に人口減少対策や労働力確保に向けた対策を講じる時期が来ているのではないかと考えています。

■令和5年は戦後78年の年にあたります。そして78年先の2101年は22世紀になりますが、労働力不足、人材不足、働き手不足の問題は、今だけでなく、今世紀ずっと続く問題、更に深刻さを増していく問題となっていくことでしょう。そして、これは一部の業種、一部の地域だけの問題に留まらず、結果、大都市と地方で労働力の奪い合い、地域間競争が今よりもさらに熾烈になっていくに違いありません。

■このように、国レベルで人口が減少する中において、将来的な人材確保を県レベルで考えたとき、これまでの移住・定住策に加え、若者が県内に「定住」し続けられるよう取り組むことこそ、最も重要な取組みであると思っています。

高校生などの若者が都会に出て行きたい気持ちは理解できますが、今の時代、インターネットで都市部はおろか世界中の情報が取得できますし、航空便の増便、鉄道・高速道路網の整備により、以前に比べて都市部との距離感は格段に縮まっています。

■若者が「県内に住み続けよう」と思うためには、愛郷心を養っていくこと、地方における可処分所得の優位性、住み慣れた地域で生活することのメリット等を知ってもらうことのほかに、資格取得の奨励・報奨や地域で暮らし続けることなどを県民が応援していくことも重要だと考えています。

そのためには、県内の高等教育、大学教育、専門学校等が連携して、福祉保健、土木建築、農林水産、商工労働など分野横断型で総合的に取り組んでいく体制を産学官で築いていかなければならないと考えます。

“人”に関する確保策

高齢者	障害者	女性
労働に限らず、あらゆる分野でこれまでの経験を次の世代へ引き継ぐ 仕事、趣味、地域貢献に頑張っている方が多くいる一方、そうでない方の力を借りられるよう考えていきます。	「福祉」ではなく、その人にあった「働く場所」を確保していく 既に労働と福祉の連携を進めている企業や、地域を元気にしている福祉団体の例が市内にもあり、この取組みを広げます。	男性に比べて低い平均賃金を改善するとともに「働く量」を増やす 非正規雇用のため「扶養の範囲で働く」ことを選択している例も多くあり、国策と併せた検討・議論を進めます。
若者	外国人	困窮者
若者の目線で、地元での就職、Uターン策を一層推進していく 資格取得奨励や旅行援助などを検討しながら、都市部との可処分所得の比較を情報発信し、「働き手」確保策を検討します。	中長期的な目線で議論を進めるとともに、短期的な対応を図っていく 中長期的には移民受け入れの議論が必要であり、短期的には「技能実習生」としての受入環境の整備を進めていきます。	ひきこもり、孤独・孤立者対策として福祉政策との連携を進める 病気や家庭の事情等の様々な理由により働くことができていない方に対して、「働く喜び」を感じてもらえる仕組みを考えます。
その他	労働力の確保と併せて、先進テクノロジー・DXなどによる業務の効率化・省力化を進め生産性の向上を図ることが必要不可欠だと考えます。	

“技術”による確保策

農業	商業・飲食店	運輸・流通	教育	医療・介護
スマート農業 自動走行トラクター ドローン スマホでの水管理等	電子決済 配膳ロボット 無人コンビニ等	宅配ロボット 配達ドローン OMOマーケティング	遠隔(オンライン)教育 AI×教育 (EdTech)	遠隔(オンライン)診療 介護ロボット

※この図は県議になる以前に考えていたことを図式化したものです。

県政報告会の概要

10月24日午後6時30分から、県議会議員となって初めての県政報告会を竹田市総合文化ホール「グランツたけた」キナーレで開催しました。

参加者は市外2名を含めて80数名。スライドを使用し、県議に立候補する決意をした時点から半年間の活動内容を全般にわたり分かりやすく報告したつもりですが、慌ただしく準備する中で反省点も少なくありませんでした。

※県政報告会の動画はホームページ・YouTubeで視聴可能です。



■報告内容

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. はじめに | 立候補の決意、当選、県議任期スタート |
| 2. 県議会と議員の概要 | 議会の構成、所属会派の選択 |
| 3. 県議会議員の仕事 | 議員活動、政務活動、政治活動 |
| 4. 一般質問の概要 | 質問・答弁概要と付した意見 |
| 5. 今後の活動の方向性 | 地域課題の解決に向けて |
| 6. おわりに | 組織体制イメージ |

■参加者からの要望・質疑

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 物価高騰に関して | ガソリンの県内外価格差の実情と対応策 |
| 2. 地域福祉に関して | 高齢者、生活困窮者の実態の把握と対策 |
| 3. 道路整備と企業誘致 | 中九州道の整備を活かした企業誘致推進 |
| 4. 地域医療体制の確立 | 市立こども診療所の診療再開への対応策 |

アンケート調査の結果概要

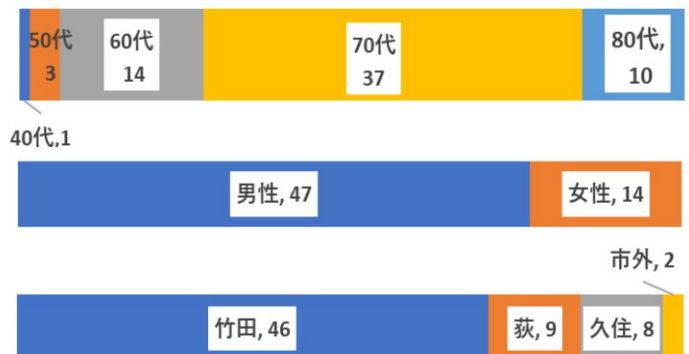
終了後、参加者アンケート調査を実施し協力いただいた方について、結果概要を皆様に報告する中で、次回以降に今回の反省点を活かしたいと考えています。

■参加者の属性

参加者の年齢は、70歳代を筆頭に、60歳代、80歳代と続き、若い世代の参加は非常に少ない結果となりました。性別は男性が8割近くに及んでおり、今後は働き盛りの世代や若年層に対するアプローチと併せて、女性の参加を促していくことが課題として浮かび上がりました。

地域別にみると7割が竹田地域の方で市外からの参加者も2名いましたが、残念ながら直入地域からの参加者はありませんでした。

竹田市から1人の県議ですので、地域の偏りは解消しなければならず今後の大きな課題と受け止めています。



■報告会の内容

内容に対する評価は、想像以上に高かったものの「あまり良くない」と答えた方も1名いました。

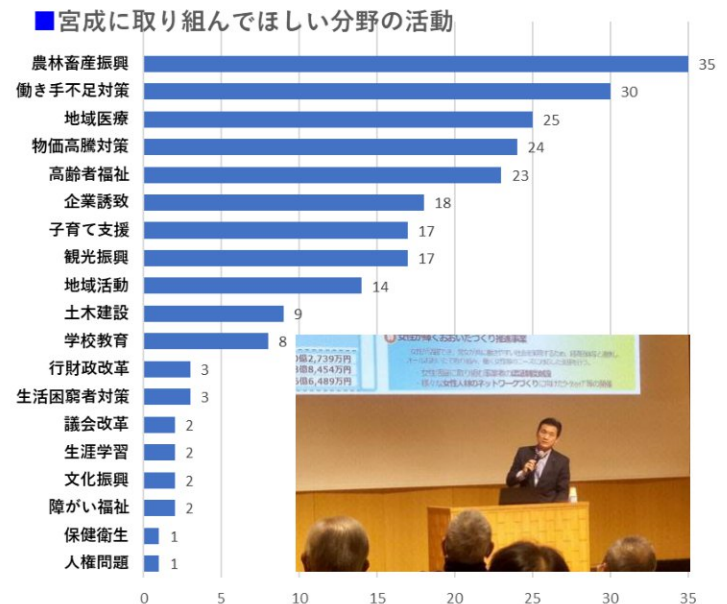
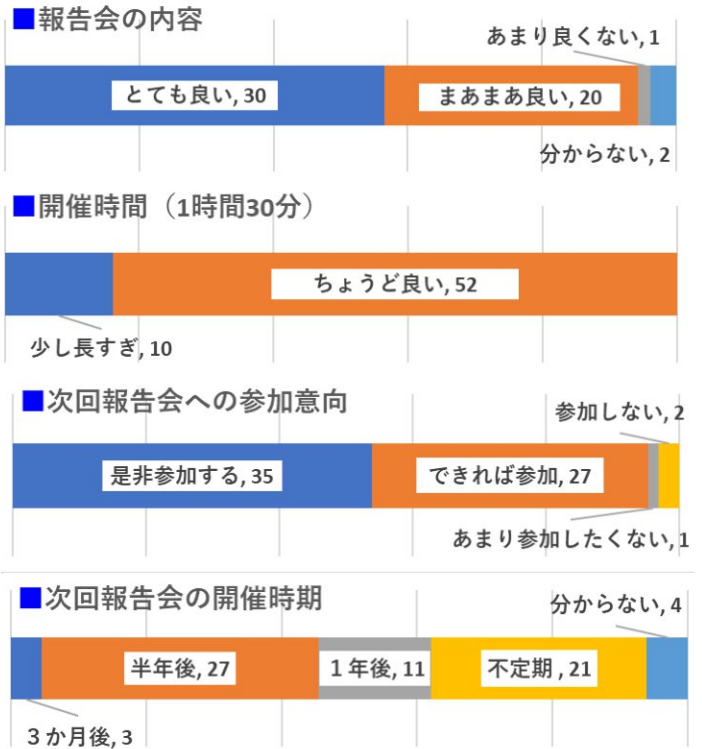
説明60分・意見交換30分の時間設定は概ね評価されましたが、平日夜間の開催ということもあり、長く感じた方も6人に1人ほどいたようです。「次回は参加しない」と答えた方も2名いましたが、半年から1年後に必要なに応じて開催できるよう準備をしたいと思えます。また、地域ごとに報告会を開催することも検討してまいります。

■取り組んでほしい分野

取り組んでほしい分野の活動について、複数回答を可として問いかけたところ「農林畜産業の振興」が最も多く、「働き手不足対策」「地域医療」「物価高騰対策」「高齢者福祉」「企業誘致」「子育て支援」・・・と続きました。

高齢者福祉には「地域交通」に対する意見もあり、暮らし・生活に密着した分野が上位を占める結果となりました。

参加者(アンケート協力者)の年齢層が高く、この結果にバイアスがかかっていることは否めませんが、今後の議会活動の参考にさせていただきます。



■県政報告会の総括～ 初めての県政報告会を通じて受け止めた課題

- 👉 いかにかに市民(特に若者や女性)の政治に対する興味・関心を高めていくか。
- 👉 いかにかに市民の声を聞き、現状と問題を理解し、政策に結び付けていくか。
- 👉 いかにかに国と大分県と竹田市との連携を深め、課題の解決に結びつけるか。

- 昨年暮れからの政治資金問題を巡って、政治に対する国民からの信頼が揺らいでいるが、政党・政治家は自浄作用を発揮して、再発防止策を早急に徹底しなければならない。
- 他方、公職選挙法では、政治家は選挙区内への年賀状などの挨拶状を出すこと、寄付行為(本人出席の結婚披露宴祝儀及び葬式・通夜での香典を除く)が一切禁止されている。
- 地域の慣習やこれまでの付き合いを考えると何とも寂しく味気ない規制となっているが、政治不信を招く行為に繋がるのであれば、法に則りこれを遵守しなければならない。
- 県議として元日を迎えるにあたり伝えたいことは山ほどあるが、未来を変えていく覚悟に変わりないことだけ末尾に加えさせていただきます。皆様、諸々ご理解をお願いします。(宮)